

どうすれば幸せな社会になるのか

さいたま市立大砂土中学校3年 土門 美琴

「投票よろしくお願いします」

中学三年の夏休み、猛暑のとある一日。選挙カーからこんなアナウンスが聞こえた。埼玉県知事、二期目を目指す現職に新人二人が挑む構図で選挙戦が繰り広げられていた。

昨年の「税についての作文」のおかげで、私は県知事をより身近に感じていた。そのためか、今年の県知事選はとても興味が湧いていた。

八月六日、私は今回の選挙も親と共に歩いて投票所に向かった。投票のとき、両親は私を必ず連れて行く。自宅から投票所に向かうまでの道で何度か選挙ポスターを見た。投票所は投票しに来た人できつといっぱいになっているだろうと思っていた。しかし、投票所は、はっきり言ってガラガラだった。その様子を見て、期日前投票に行った人が多かったのかな、と私は安易に考えていた。

八月七日、「県知事選挙の投票率二十三、七六パーセント、全国知事選投票率ワースト」というニュースが流れてきた。多額の税をかけて選挙をするのにと、私はそれを見た瞬間、驚くとともに少しの怒りを感じた。社会の授業で先人が選挙権獲得のために尽力したと学んだ。そして現在、選挙権を持つ年齢が引き下げられ、さらに多くの国民が選挙に行けるようになったのに。私だったら必ず投票する。

もし、私が当選した知事の立場だったら、残りの約七十六パーセントの人はどう思っているのか、不安で仕方が無い。知事の主な仕事は、予算案をまとめ、条例案を策定して議会に提出したり、スムーズに行政を行えるように地方税や地方交付金の用途を決めたりすることだ。自分の生活を豊かにする税の使い道を選ぶために、選挙権のある全員が投票することが大事だ。

コロナ禍で不安な毎日を過ごす中、公共のサービスのおかげで多くの人達が助けられた。

これからも、手厚い公共サービスを求める未来が予想できる。高齢化や少子化にともなう社会保障、自然災害から身を守るための公共事業など、税は様々な場面で使われる。そして、税の歳出は国内問題に限らず、海外の動向にも左右される。ウクライナとロシアの戦争が続く不安定な世界情勢の中、防衛費も多額になっている。

だからこそ、自分が投票し、税の使い方をどうするのか、他人事にせず自分で行動できるようになりたい。たとえ出来レースに思える選挙でも、私が一票を投じることでその後の政治にも関心を持つことができると思う。政治と税は切り離せない。それならば、税のことを考えることで政治にも興味をもてるはずだから。

三年後、私は成人する。選挙権を持ち、アルバイトを始め納税者になる。私は税を通して「どうすれば幸せな社会になるのか」考え行動できる大人になりたい。未来は明るいはず。百歳の私が笑顔でいられるように。